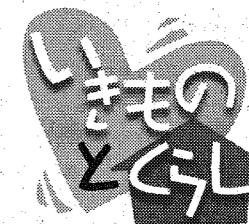


鳥よけのネットの中で順調に成長するアワを眺める木下善晴さん=山梨県小菅村



自然を利用して守る

雑穀種保存 食べてこそ 山梨



各地には土地の人が大切に守り、受け継いできた自然があります。多くが失われかけていますが、自然の恵みを積極的に利用することで、守ろうとする取り組みが盛んになっていきます。

(吉川一樹、須藤大輔)

食生活の変化から、ヒエやアワなどの雑穀類は、1970年代には日本でほとんど栽培されなくなった。しかし今も雑穀を大切に作っている地域がある。

多摩川の源流域、山梨県東部の山あいにある小菅村。木下善

晴さん(77)は8月中旬、鳥よけのネットの中で、順調に育つアワとキビに目を細めた。「実りは何ともいえないね」。平地が少ないうえに日照時間が短い。川の水温も低いため、米作りには適さない。代々、さまざまな雑穀が作られてきた。

8月の昼下がり、若い男たちが獅子のかぶり物をまとい、舞が獅子のかぶり物をまとい、舞殿の奉納があった。

「舞殿」と呼ばれる舞台の屋根は茅葺き。茅は、ススキやヨシなど屋根をふく植物の総称だ。前回のふき替えから約20年。北面には雜草が生い茂る。この地区にはかつて2000軒もの茅場が広がっていた。茅場とは、住民が共同で管理する草原のことだ。春には野焼きをし、秋にススキを刈った。そのままススキでふいた屋根が、豪雪地帯の暮らしを守った。野焼きの後の草原では、ワラビやゼンマイなどの山菜が豊富に採れ、クズの葉は馬の飼料にした。ほとんどは高度成長期に売却され、「師子舞」が奉納される舞殿。近く茅葺き屋根のふき替え工事が始まる=群馬県みなかみ町



ススキの草原共同管理

群馬

い続けていた。利根川の源流、群馬県みなかみ町。諏訪神社で約800年続く「師子（獅子）舞」の奉納があった。

2000年、建築面積157平方メートル。2005年に「規模が大きくなる見応えがある」などとして国の登録有形文化財になった。

茨城県中部、筑波山のふもとにある石岡市八郷地区。茅葺き屋根の民家がいまも70棟ほど残る。「筑波流」と呼ばれ、軒先や頂上部の装飾に凝っているのが特徴だ。真夏でも熱がこもらないので、ひんやり涼しい。

ブドウ園を経営する大場克己さん(72)夫婦が暮らす家は築約200年、茅葺き屋根を残していながら、2005年に「規模が大きくなる見応えがある」などとして国の登録有形文化財になった。

茨城県中部、筑波山のふもとにある石岡市八郷地区。茅葺き屋根の民家がいまも70棟ほど残る。「筑波流」と呼ばれ、軒先や頂上部の装飾に凝っているのが特徴だ。真夏でも熱がこもらないので、ひんやり涼しい。

見直される 茅葺き民家

茨城

茨城県中部、筑波山のふもとにある石岡市八郷地区。茅葺き屋根の民家がいまも70棟ほど残る。「筑波流」と呼ばれ、軒先や頂上部の装飾に凝っているのが特徴だ。真夏でも熱がこもらないので、ひんやり涼しい。

ゴルフ場に変わった。残るは町有地の21ヶ所。そこで、市が採れたススキを利用し、年内に舞殿の屋根の北面をふき替える。茅場の管理を委ねられた市民団体「森林整備会」の清水英毅塾長は「茅場は『うさぎ追いしかの山』の原風景。人の手が入ることで風景と、多様な生き物のすみかが守られている」。

「都合良さ」求め失われる多様性

食べ物や木材など、私たちは多くの恵みを自然から受け取っています。ある子どもの記憶も土地の自然と結びついていれば、しかし世界では、森林破壊や乱獲によって、生物種の絶滅が

続いている。直接的な自然破壊ばかりではありません。おいしさのこと、たくさん採れることなど私たちが「都合のいいもの」を追い求めた結果、作物や家畜の多様性も失われているとされています。各地では、伝統野菜などの在来品種も失われています。

将来、大変な事態を招くかもしれません。病気の発生や気候の変化に、対応できる遺伝子を失っている可能性があるからです。家畜の世界でも「優秀な種牛」に頼りすぎると産地が困った事態になることが、最近の「蹄疫発生で明らかになりました。佐藤教授は「豊かに食べる

ことにつながります」と話しています。

私たちの暮らしと、生きものとの接点を見つめる話題をこれからも随時、取り上げていきます。

△
私の暮らしと生きものとの接点を見つめる話題をこれからも随時、取り上げていきます。

